２０１８年度（平成３０年度）

事業報告

社会福祉法人
広島聴覚障害者福祉会

2018年度（平成30年度）

社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会

事業報告

【2018年度の取り組み】

① アイラブ作業所の就労継続支援B型事業と生活介護事業、障害者相談支援事業は4月1日から、放課後デイサービス手と手の広場1・2とヘルパーステーションアイラブの同行援護、移動支援、居宅介護事業、介護保険の訪問介護は8月1日から、社会福祉法人に移行して事業を開始しました。これまでNPO法人で行ってきた事業はすべて廃止届を提出し、9月にNPO法人の臨時総会を開いて、解散を決議しました。NPO法人のすべての財産は社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会に寄付されました。

② アイラブ作業所と障害者相談支援事業所あいらぶの開所式と開所パーティを4月22日、アイラブ作業所の3階食堂と広島市文化交流会館を使って行われました。開所式には100名、開所パーティー150名を超える参加者で、盛大に行われました。

③ 短期入所事業所アイラブの家が、吉島東3丁目の民間のマンションの1室を借りて、3月より開所しました。定員は2名ですが、将来グループホームができた時には、その中に取り込む予定です。

④ 将来構想検討会議を7月より再開し、6月の家族会で要望の多かったグループホームの早期建設と、ろう高齢者が抱える課題（一人暮らしの高齢者の生活の場や、手話のある日中のデイサービスなど）についてアンケートの実施やホームの見学、学習会などを行ないました。

⑤ NPOの時は各事業所とも週休2日制と週35時間勤務を基本に運営していましたが、社会福祉法人になり人件費の見直しや事業収益の悪化なども重なり、1年目から赤字運営になったため、事業運営を見直し、週40時間、1日8時間の変形労働制の導入や、残業の見直しなど経営改善を図ってきました。各事業所ごとに就業規則の変更や法人の収支状況を説明し、法人全体で取り組みを行っています。

⑥ 法人理念のアンケート実施

管理者会議でこの法人の柱となるべき法人の理念を作成することになり、法人一人ひとりにアンケートを配り実施しました。アンケートを集計し、候補を絞った段階で、時間的余裕がなくなり、途中で頓挫してしまいました。２０１９年度中に理念を作成したいと考えています。

⑦ 職員健康診断の実施　　H31年１月１５日～２月２２日

検診場所　　広島健康管理・増進センター

⑧ 福祉会便りの発行　　年４回　（５月、８月、11月、２月）

発行部数　　後援会会員と関係機関（380部）、アイラブ作業所・手と手の広場（９０部）

法人本部の活動

1．理事会・評議員会の開催

理　事　会		評　議　員　会	
第１回理事会	６・７	第１回評議員会	６・２１
第２回	８・９	第２回	８・２３
第３回	１２・１３	第３回	３・２８
第４回	３・７		

2．管理者会議の開催

4月		10月	１０・２４
5月	５・３０	11月	１１・２８
6月	６・２８	12月	１２・１９
7月	７・２５	1月	１・３０
8月	８・２９	2月	２・２０
9月	９・２６	3月	３・２６

3．法人全体に関わる研修、職員会議

辞令交付式　　4月2日（アイラブ作業所、相談支援事業所）

　　8月1日（放課後デイサービス、ヘルパーステーション）

新任者研修　　9月11日

全体職員会議　　11月10日

①新規事業「短期入所事業の開所について」②３６協定の職員代表選出について

4．中間ならびに決算の監査実施

中間監査	11月27日
決算監査	6月1日

5．ヘルパーステーション実地指導　　１１月１９日（監査指導室）

障害者相談支援事業所実地指導　　1月24日（監査指導室）

ヘルパーステーション介護保険の実地指導　　2月13日（広島市介護保険課）

法人事務の予防的実地指導　　2月1日　　広島市監査指導室

6．将来構想会議

第1回　7月26日	家族会の要望、アイラブ作の現状報告、
第2回　9月２７日	Gホームについて仲間のアンケート、おりづる作業所のGホーム仲田さんから（学習）、
第3回　１１月２２日	短期入所事業について職員会議の報告、藤本案、夢トピア吉村さんから、 ろう高齢者の課題、
第4回　1月３１日	短期入所事業の専従職員配置、ホームクローバー見学の感想、 自立支援課に私有地の貸与要望、

7．　職員募集のための見学会や採用試験の実施

職場見学会　　9月10日（見学者　2名）

面接会　　9月２１日（受験者５名）

8．　職員面談と人事希望調査

人事希望調査　10月1日配布　　10月11日　回収

職員面談　　１０月１５日～１９日

9．３６協定の締結

平成３０年度分の締結　１２月１２日　　労働基準監督署提出

平成３１年度分の締結　　3月２９日　　労働基準監督署提出　　4月4日

就業規則変更後の締結　　4月１９日　　労働基準監督署提出　　4月１９日

２０１８年（平成３０年）度

アイラブ作業所（生活介護事業・就労継続支援Ｂ型事業）
事業報告

全体総括

4 月に開催したアイラブ作業所の開所式とパーティーでは、暖かい心のこもった良い会となり、これまでお世話になった方々にお礼を伝えることができました。新しい施設ということで、多くの見学者や実習生、地域のボランティアを受け入れ、色んな方たちと出会え交流ができた 1 年でした。

年齢層も 20 歳から 85 歳までと幅広く、一人ひとりの障害もニーズも大きく違っていますので、個々に合わせた支援をしていくよう心がけました。作業では、菓子工房の設備がオーブンや冷凍庫など追加され、スペースが広くなったことでこれまで以上にゆとりを持って作業ができるようになりました。内職では地元の金融機関からいくつかの企業を紹介していただき、新たな作業を請け負うことになりました。時間を持て余すことがほとんどなく、忙しいことが嬉しいことにつながっています。縫製やおりづる製品も仲間の得意な面を引き出しながら素晴らしい商品を考え、たくさんの方に感動を与えたり、喜んでもらっています。そして廿日市の野菜づくりも 3 年目になり、屋上のミニ菜園と共に施設の玄関先で地域の方に買っていただいたり、手話関係者のところに出向いて販売しています。生活介護では、納品に出かけたり、みんなに気持ちよく過ごしてもらうために施設内をきれいに掃除することができました。そういったみんなの力で、目標の一つとしていた工賃アップも、わずかですが今年 1 月から実現できました。

18 年度は新しい仲間が 4 名増えました。その内 2 名は 65 歳以上の方です。仲間全体ですと 41 名のうちろう高齢者が 14 名、80 歳代の方が 5 名となり、年齢を重ねる方への支援する中身も広がってきています。しかし、そのほとんどがまだまだ作業を続けて「役に立ちたい」「ありがとうと言ってもらいたい」という思いを持たれている方が多いようです。ただ、一方で作業中心ではなく、人生を語り合いながらゆっくりと時間を過ごして楽しめる日中活動の場の必要性も感じます。

また、重複のある仲間のご家族からは、個別面談時に「次はグループホームを！」「親が高齢になりそろそろ限界…」という声を聞き、将来に対して不安を持っておられることを改めて実感しました。グループホームのことを学ぶために他の法人が運営しているグループホームの見学会を企画し、ろう重複障害のある仲間、母親、職員など 34 名で見学させてもらいました。ホームのイメージが少しついたようで「親が亡くなったら入りたい」「今度こういったところで生活したい」という仲間もいました。仲間が安心して楽しく暮らせるよう作業所として何を提起してどう取り組んでいくかがこれから重要になると感じています。

1. 仲間の状況（41名）

65歳以上が14名となる。高齢者の場合は単身が増えている。

【年齢別】　20代：5名、30代：5名、40代：9名、50代：7名、60~64歳：1名
65~69歳：1名、70代：8名、80代：5名

【同　居】　単身：10名、配偶者：6名、親や兄弟：17名、子：2名、施設やＧＨ：4名、
アイラブの家（法人借用）：2名

【住所地】　広島市：37名（中区15名　東区3名　南区6名、西区5名、安佐南区4名、安佐北区3名、佐伯区1名、安芸区：0名）府中町：1名、廿日市市：1名、東広島市：1名、呉市：1名

・４つの事例を紹介（①高齢の家族から介護を受けながら生活しており、利用者本人も家族も厳しい状況に置かれている。②認知機能の低下が見られる、ろう高齢者の利用者で単身生活が困難な状況になり現在認知症グループホームの入所を検討。③家族状況の変化により単身となったことと合わせ、身体機能の低下により転倒が増えたため、送迎開始し今後居宅支援も増やすことを検討。④一般就労を希望しているが実現できなかったため、現在も作業所で頑張っている。）

２．通所実績（定員：就労継続支援Ｂ型 25 名　生活介護 20 名）

2019 年 3 月 31 日時点　　就労継続支援Ｂ型　30 人　　生活介護　11 人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開所日数	20	21	21	21	20	18	22	21	20	18	19	20	241
就労継続支援Ｂ型	435	487	493	478	451	420	506	496	434	411	444	460	5515
生活介護	130	145	137	147	132	131	150	141	126	120	141	143	1643
合　計	565	632	630	625	583	551	656	637	560	531	585	603	7158

＊就労継続支援Ｂ型：５月１名増、６月１名増、８月１名増、　　生活介護：８月１名増

３．工賃状況

	就労継続支援Ｂ型	生活介護	合　計　　（円）
4 月（4/10）	174,000	52,000	226,000
5 月（5/10）	194,800	58,000	252,800
6 月（6/8）	197,200	54,800	252,000
7 月（7/10）	191,200	58,800	250,000
8 月（8/10）	180,400	52,800	233,200
9 月（9/7）	168,000	52,400	220,400
夏のボーナス（9/7）	317,040	93,360	410,400
10 月（10/10）	202,400	60,000	262,400
11 月（11/8）	198,400	56,400	254,800
12 月（12/10）	173,600	50,400	224,000
年末手当	30,000	10,000	40,000
1 月（1/10）	183,700	52,680	236,380
2 月（2/8）	198,430	63,110	261,540
冬のボーナス（2/8）	461,200	136,000	597,200
3 月（3/8）	204,870	61,850	266,720
合計	3,075,240	912,600	3,987,840

４．職員体制　　常勤：１１名　　非常勤：１２名　　3月31日時点

＊兼務あり

①就労継続支援Ｂ型事業

常　勤	管理者・サービス管理責任者	1	
	生活支援員	6	
	職業指導員	1	
非常勤	生活支援員	6	
	職業指導員	1	
	事務	1	

②生活介護

常　勤	管理者	1	
	サービス管理責任者	1	
	生活支援員	1	
非常勤	生活支援員	6	
	看護師	1	
	事務	1	

５．作業に関する取り組み

内職・解体

解体作業は、仲間の技術向上と作業時間の拡大により、昨年４月の時点では工賃が月３万円前後だったが、現在は５万円～6万円に上がった。他の請負作業も仲間と一緒に確認しながら、ペットフードのパック詰めなど新しい仕事も覚えて丁寧に作業をすることができた。

菓子工房

大きいオーブンと冷蔵庫を新たに設置してもらったことと、仲間一人一人ができる仕事が増えたことで、数の多い注文や販売に対応することができ生産量が増えた。また新しくレーズンチーズクッキーを作り、商品化することができた。昨年、初めて舟入高校やノートルダム清心高校の文化祭で委託販売をしていただいた。

縫製

高齢の仲間がわっかの糸処理を行い、みんなで協力をしながら、盲ろうの仲間が毎日わっかを編み続けることができた。わっか製品を奈良県の“くつ下リサイクル作品展”へ応募し、賞をいただくことができた。一般の方の応募に交じって、盲ろう者の作品が入賞６作品の内の１点に選ばれたこ

とは日頃の活動の成果が認められたことで嬉しい。また新たにアイマスク等のミシン縫製作業の依頼を受けることになり、ミシンの技術を身に付けたい仲間が作業所に通えるようになった。

販売

仲間が自主製品を販売することで、アイラブ作業所の活動に対する理解や関心を広めることができ、社会参加、啓発につなげることができた。

生活介護

一週間、曜日で決まった場所（玄関、各階の廊下、階段、屋上）の清掃。毎日、花壇の花や野菜の種や苗を植え、水やりを行い、時期を見て収穫をし、販売ができるようにビニールに入れる作業も行った。内職で作った製品や菓子の商品を納品先に毎日届けている。また、定期的な販売活動にも参加している。

6．活動内容及び年間行事等

辞令交付式

4/2（月）辞令交付式

職員会議

4/7 日（土）、4/21（土）、5/19（土）、5/26（土）個別支援計画発表①、6/9（土）個別支援計画発表②、6/2（土）、7/7（土）、7/21（土）、7/21（土）、8/4（土）、8/25（土）、9/8（土）、9/22（土）、10/ 6（土）、11/10（土）モニタリング、11/17（土）、12/8（土）、12/15（土）、1/12（土）、1/26（土）、2/9（土）、2/23（土）、3/9（土）、3/29（木）総括①、3/30（金）総括②

リーダー会議（正職員のみ）

5/15（火）、6/20（水）、9/20（木）、10/23（火）、11/12（月）、12/27（木）、1/25（金）、2/13（水）、3/6（水）

見学・来訪者

4/26（木）広島市障害者自立支援課及び他課の職員計６名見学の為来所

5/14（月）手話サークルわかば（20 名）見学

5/31（木）手話サークルあゆみ（昼）見学

6/20（水）丸本鋼材の社員見学（２名）⇒支援の様子を見学

7/5（木）広島特支高等部３年生と職員１１名見学⇒カープＶバッグ製作の見学

9/20（木）手話サークルかけはし見学（３名）

10/16（火）中島地区民児協の皆さん見学

10/25（木）中区民児協の皆さん見学

11/22（木）中区保健福祉課見学（職員２名、学生５名）

1/18（金）広島市障害福祉課（手話相談員）見学

1/30（水）中区社協見学

実習受け入れ

6/4（月）～5（火）南特支　高等部３年生（１名）

6/7（木）～8（金）南特支　高等部３年生（１名）

6/18（月）～22（金）市立特別支援学校高等部３年生（１名）

7/2（月）～6（金）南特支　高等部３年生（１名）
7/4（水）矯正研修所刑務官（４名）
7/6（金）～10（火）新規利用希望者（１名）
10/26（金）矯正研修所刑務官（４名）
12/20（木）矯正研修所刑務官（６名）
12/3（月）～5（水）広島南特支高等部３年生（１名）
12/5（水）～7（金）広島南特支高等部３年生（１名）
12/10（月）～12（水）広島南特支高等部２年生（１名）
12/20（木）矯正研修所刑務官（６名）
1/21（月）～25（金）広島南特支高等部３年生（２名）
2/5（火）矯正研修所刑務官（４名）
2/27（水）矯正研修所刑務官（６名）
2/28（木）矯正研修所刑務官（６名）

行事

4/13（金）花見（アイラブ作業所内）
4/22（日）アイラブ作業所開所式・祝賀会（アイラブ作業所・広島市文化交流会館）
6/1（金）とうかさんでよさこいソーラン出演（中央通り）
6/29（金）健康学習会（吉島福祉センター）外部講師：広島市スポーツ協会
7/8（日）ろう重複障害者交流会（吉島福祉センター）
8/31（金）納涼会（吉島福祉センター）
9/2（日）ろう重複障害者交流会（吉島福祉センター）
10/7（日）第14回アイラブまつり（吉島福祉センター）
事務局会議：5/25（金）、7/5（木）、8/2（木）、9/6（木）
まつり実行委員会：6/21（木）、7/19（木）、8/3（木）、9/19（水）、11/15（木）
まつり準備：10/6（土）
＊まつりの収益：184,915円→仲間の要望を聞いて使う。
災害復興支援募金：7,891円→「きょうされん自然災害支援基金口」
11/3（土）国際平和マラソン大会に参加
11/9（金）日帰り旅行（湯来町）
12/21（金）クリスマス会（アイラブ作業所）
1/17（木）ホームクローバー見学（おりづる福祉会　中区平野町）
仲間：17名、職員・理事：12名、家族：5名　　合計：34名
1/28（月）新年会（アイラブ作業所）
2/8（金）中区作業所連絡会「冬の交流会」
＊なるほど学習会・手話学習会・みんなの学習会

販売活動

4/14（土）広通研総会販売
4/28（土）メーデー販売（中央公園）

5/3（木）～5（土）ＦＦ販売
5/20（日）おりづる作業所まつり販売
5/27（日）広島市ろうあ者大会販売
6/17（日）県ろうあ者大会販売
7/26（木）シャレオ体験教室・販売
8/4（土）吉島西町内会夏祭り
8/10（金）～11（土）ピアマルシェ販売
9/1（土）もみじ作業所まつり販売
9/9（日）マーガレットコンサート販売
10/28（日）白島いきいきまつり販売
11/17（土）～18 中国地区ろう高齢者大会販売（広島市）
11/18（日）光清学園まつり販売
12/1（土）スマイル２１販売（府中町公民館）、矯正展販売（中小企業会館）
12/7（金）セルプフェア販売担当
12/9（日）セルプフェア販売
12/16（日）聴覚障害者センターまつり
1/13（日）とんどまつり（吉島公園）
1/27（日）広島県ろうあ連盟高齢部新年会販売
2/10（日）手話通訳問題を考える研修会（福山市）にて販売
2/17（日）県高齢部総会販売
2/24（日）県女性フォーラム販売
3/10（日）耳の日大会（尾道市）
3/23（土）～24（日）県手連一泊研修会（尾道）委託販売
＊他に市役所販売、ふれ愛プラザ販売

中島地区民協のミニ手話講座

4/17（火）、5/15（火）、6/19（火）、8/21（火）、10/16（火）、1/15（火）、2/19（火）、3/19（火）

寄付・寄贈

イオン　様
多山報恩会　様
尾崎基金　様
イオンクレジット　様

家族会

6/3（日）家族のつどいを開催。参加者：家族 11 名、職員　21 名

後援会活動

4/5（木）後援会役員会
6/3（日）後援会総会
11/1（木）後援会役員会

12/15（土）後援会研修「農作業について」

12/27（木）後援会役員会

2/14（木）後援会役員会

3/3（日）後援会主催講演会（講師は兵庫県の小林泉さん）、午前中「ひとりぼっちをなくそう懇談会」

講師依頼

・5/29（火）シルバーサービス振興会主催の介護キャリアアップ支援研修「聴覚障害者への理解、支援
のポイント」について講師担当

・8/26（日）鳥取県での研修　　午前：講演、午後：事例検討

・11/8（木）呉特支学校講演

・11/22（木）手話サークル「いこい」にて講演（安佐南）

・2/10（日）手話通訳問題を考える研修会（福山市）にてレポート報告

・2/26（火）十日市民児協手話講座

取材・調査等

・8/30（木）「経済レポート」取材

・9/27（木）群馬大学より実態調査の為、３名来所。

・12/17（月）広島市障害者自立支援課訪問、ＧＨのことについて

・1/29（火）南区介護保険課訪問

西日本豪雨災害ボランティア参加

7/15（日）災害ボランティア（職員１名）

7/16（月・祝）災害ボランティア（職員１名）

7/21（土）、災害ボランティア（職員５名）

7/22（日）災害ボランティア（職員６名）

他団体の会議

11/25（日）広島県聴覚障害者災害対策本部会会議（聴覚障害者センター）

2/17（日）広島県聴覚障害者災害支援本部会（県聴覚障害者センター　）

3/22（金）給食会議

2/20（水）街なか交流会（中区自立支援協議会）

＊ＦＦ販売会議、もみじ作業所まつり実行委員会、町内会夏まつり実行委員会、セルプフェア販売会議、県手話通訳を考える集会担当者会議など

避難訓練・健康について

・9/12（水）火災避難通報訓練

・3/15（月）地震火災避難通報訓練

・3/20（水）仲間の健診

＊3階の高齢者への対応が課題。

その他

8/11（土）～15（水）盆休み

9/10（月）坂下外科で敬老会、アイラブの仲間がよさこいを披露
9/14（金）６５歳以上の仲間との懇談会
9/25（火）農業支援機構の職員来所し、面談
11/14（水）丸本鋼材社長他１名来所
11/16（金）広銀支店長と取引先社長来所し、内職の件で相談
12/29（土）～1/6（日）冬季休暇
2/11（月・祝）吉島西町内会のユニカール大会に参加
3/1（金）広島南特別支援学校卒業式参列
3/18（月）東洋産業との契約

７．研修

きょうされん国会請願　　5/23（水）～24（木）１名
聴覚障害者関係施設新任研修　１名
サービス管理責任者講習会受講 9/5（水）、10/3(水)～5(金)、11/14(水)、12/12(水)～13(木)1 名
法人新任研修　　9/11（火）１名
食品管理フォローアップ研修会　9/19（水）１名
全国ろう重複障害者施設連絡協議会主催　施設長会議（仙台市）10/12（金）～13（土）１名
全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会（東京）10/20（土）～21（日）２名
社会福祉士実習指導者講習会（県立広島大学）10/27（土）～28（日）１名
福祉現場のリーダー育成研修会（県社協）10/30（水）１名
防火管理者講習　　11/15（木）～16（金）１名
虐待防止研修　　11/21（水）　１名
工賃向上実践報告研修会（健康福祉センター）11/2（金）１名
広島県ファシリテーター研修会　11/27（火）～28（水）１名
手話言語を用いた面接技術講座（広島県立大学）12/1（土）～2（日）　１名
農副連携セミナー（広島市総合福祉センター）12/8（土）　２名
統合失調症研修（精神保健センター）2/13（水）　１名
県集団指導研修（東区民文化センター）3/ 26（火）１名

８．成果と課題

・新たに北コース（安佐南区～西区横川～中区）の送迎を始めることができた。
・職員の入れ替わりが激しい。人材確保や人材育成をどのようにしていくか。また、菓子専門の職員を配置したい。

・さらなる工賃アップをめざすための検討。
・消耗品や備品の過剰な使用を控えて無理のない範囲で節約していく。
・職員間のコミュニケーションや情報保障をスムーズにし、会議はできるだけ仕事時間内に行うようにしていく。
・家族の高齢化により、ろう重複障害のある仲間たちの生活支援の場づくり。
・ろう高齢者の健康や生活面で不安なことが増え、支援の幅が広がってきている。情報保障やコミュニケーション保障のある場所をどう作っていくか考えていく必要がある。

２０１８年度（平成30年度）

ヘルパーステーション・アイラブ事業報告

平成30年8月にNPO法人広島聴覚障害者福祉会から社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会に移行しました。それに伴い、すべての事業申請を新たに行い、NPO法人での事業をすべて廃止届を行いました。また、11月に障害福祉サービスの実地指導（障害自立支援課）2月に介護保険（訪問介護）の実地指導（介護保険課）がありました。どちらも重大な注意や指摘はありませんでしたが、法人が変わったことで、利用者さんとの契約書や職員の労働条件書などもすべて変わり、手続きに追われました。

支援の内容では、盲ろう者友の会の同行援護（盲ろう者専門）が昨年度から始まったため、アイラブ作業所に通う盲ろう者の同行援護がなくなり、外部の視覚障害者の同行援護が増えました。視覚障害者の同行援護には聴覚障害者のヘルパーが支援できないため、聴覚障害者のヘルパーの同行援護の仕事が急激に減ってしまったという問題が起きました。

研修会はヘルパーステーションの主催で年3回行い、研修の後、ヘルパーの意見交換なども実施しました。

【契約利用者数】

人　　月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
移動支援	23	23	26	29	28	27	25	25
同行援護	5	5	4	4	4	4	5	5
居宅介護	5	8	10	9	9	8	8	8
介護保険	1	1	2	2	3	3	3	3
介護予防生活支援総合事業	2	3	3	3	3	3	3	3

※支援中止の人を除く

【研修開催・参加】

8/25　アイラブ作業所研修会

9/15　ヘルパー研修会①

10/7　アイラブまつり

10/20,21 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会

11/19　障害福祉サービス実地指導

2/9　ヘルパー研修会②

2/13　介護保険実地指導

3/13　介護保険集団指導研修

3/26　障害福祉サービス集団指導研修

【人事】

3/1　正規職員１名ショートステイへ異動

3/18　正規職員１名採用

【成果と課題】

成果：

盲ろう者の同行援護が減った代わりに全身性、視覚障害者の利用者が増えた。

課題：

① 収入の比率は同行援護が減って移動支援が増えたが、移動支援は単価も低く処遇改善加算がつかないため収入全体は減少した。

② 単身高齢利用者（認知症傾向）の支援では、居宅に入れる時間が短く限界がある。特に週３回入っている利用者の所は、サービスをヘルパーしか利用していないため、ヘルパーが入らない日の過ごし方に不安を感じた。ケアマネージャーや地域包括支援センター、手話相談員と連携し、他のサービス利用も検討した。

③ 日常的にヘルパーが不足した。事業所から遠い場所への派遣、短時間のヘルパー利用や早朝や夕方～夜など入りづらい時間帯のニーズが多いためヘルパーの負担が大きいと感じる。また土日の支援の要望はあっても、動けるヘルパーが限られ、十分に応えることができなかった。

2018年度（平成30年度）

障害者相談支援事業所あいらぶ
事業報告

1. 契約状況　平成30年4月～平成31年3月

基幹、他事業所からの紹介・・17名

本人、家族からの相談・・8名

障害者　22名

障害児　3名

2. 職員会議

管理者1名、相談支援専門員1名のため、経過報告は随時行い情報共有に努める。

3. 研修

虐待防止・権利擁護研修（広島市）

精神保健福祉講座（全3回）

広島市指定相談支援事業者研修会

平成30年度指定障害福祉サービス事業者等集団指導研修

4. その他の活動

月1回　中区地域部会参加（年2回　無料相談会担当）

将来構想検討会議参加

5. 成果と課題

成果：①契約者は聴覚に障害を持った方が半数以上である。（25名中18名）

②他事業所からの聴覚の方の引継ぎが増えている。

聴覚に特化した事業を展開している聴覚障害者福祉会の理解が広まっている

課題：①精神疾患の利用者1名と半年で契約解除になった。三障害の受け入れをしている以上、精神保健福祉講座や研修に参加し、知識を深める必要がある。

②相談支援専門員が一人の為、急遽休むことになった場合でも利用者に迷惑をかけないよう管理者と常に情報共有し、連携が取れるような体制作り。

6. 1年を振り返って

何もかもが初めてで、相談支援専門員1名のため相談相手もいないので悩み、苦しい時期もありました。自分が作った計画が本当に利用者のためになっているのか、どこまで利用者の希望に沿うべきか常に頭を悩ませていた。その中で、多方面の事業所の方との出会いや助言に救われることも。今もまだ満足のいく計画が作れているかわからないが、利用者の立場になって考えられる相談員になれたらと思う。

【利用者状況】平成30年4月～平成31年3月

地域別	（人）
中区	12
南区	5
東区	2
西区	0
安芸区	1
佐伯区	1
安佐北区	0
安佐南区	4
計	25

年代別	（人）
10代	5
20代	3
30代	5
40代	3
50代	6
60代	0
70代	2
80代	1
計	25

区分別	（人）
区分なし	6
区分1	0
区分2	3
区分3	5
区分4	6
区分5	3
区分6	2
計	25

※就労継続支援B型や放課後等デイサービスに通所している方は、区分認定がなくてもサービスが受けられる

(4)障害別　（人）

視覚のみ	3
視覚・聴覚	3
聴覚のみ	3
聴覚・療育	12
肢体のみ	3
精神のみ	1
計	25

2018年度

短期入所事業所アイラブの家
事業報告

【はじめに】

短期入所事業所アイラブの家は、保護者の介護負担軽減(レスパイト)を目的とし、2019年3月に開所しました。場所はアイラブ作業所から歩いて20分ほどの吉島東3丁目の民間の集合住宅の一室です。社会福祉施設になるので、消防法に適応するよう改装し、非常ベルや呼び出しベルに聴覚障害者職員のためのフラッシュベル等も設置されています。

職員は専従の 常勤職員2名(男性1名、女性1名)を配置し、アイラブ作業所の仲間を中心に計画的利用を進めています。（月・水が女性、火・木が男性の一泊ずつの利用）

まだまだ始まったばかりの事業なので、開所時に見学や体験利用を呼びかけたところ、13組の仲間や保護者が来られ、感心の高さがうかがえました。その後宿泊を開始しました。男性 5 名、女性3名が契約されて、ひと月に1～4回ずつ宿泊利用を予定しています。

利用した仲間は宿泊中落ち着いて過ごされ、宿泊のない日も次に泊まるのを楽しみにされています。宿泊をしていくことで、保護者にはゆとりが生まれ日々の生活を穏やかに送る力となり、利用者本人には生活体験の幅を広げ自立生活への自信になることを期待します。

【課題として】

・専従の職員が男女各一人の為、家族の入院時等の緊急時の利用の体制がまだできていないこと。
・障害が重い仲間や、複数で過ごすのが苦手な仲間はどうしても一人のみの宿泊になり、経営が難しいこと。
・ろう高齢者（65才以上の）の利用不可の問題が解決されないこと。
・将来ＧＨ（グループホーム）開所につながる事業として、開始されたものの、まだ開所の見通しが立たないことなどが挙げられます。

仲間一人一人がそれぞれの自立生活のイメージを作り、将来に向けて頑張るためにもＧＨ（グループホーム）の計画が欲しいところです。